

プレスリリース
報道関係各位

2026年3月18日
公益財団法人日本交通文化協会
あいの風とやま鉄道株式会社

あいの風とやま鉄道・富山駅 中央改札口横にパブリックアート設置

富山の自然の恵みを表現した大型ステンドグラス作品

『生命の根 (いのちのね)』 公開

ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明 原画・監修



公益財団法人日本交通文化協会（所在地：東京都千代田区、理事長：滝 久雄／以下、日本交通文化協会）とあいの風とやま鉄道株式会社（本社：富山県富山市、代表取締役社長：伍嶋 二美男）は、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受け、あいの風とやま鉄道・富山駅 中央改札口横に大型ステンドグラスによるパブリックアートを設置し、2026年3月18日（水）より公開します。

本作品のタイトルは、『生命の根 (いのちのね)』です。ファッション・テキスタイルブランド「ミナ ペルホネン」デザイナーの皆川 明氏が、自身初となるステンドグラスの原画・監修を手掛けました。

皆川氏が描き下ろした原画には、富山の空、海、山、そして土地と、あらゆる自然環境からの恵みが湧いてきて、根のように広がり暮らしに繋がる姿が表現され、そこから生まれる恵みがこの土地を支えて守ってくれることをイメージしています。そこには、富山に息づく自然や美しい景観、工芸などの有形無形の文化資産を、住む人や訪れる人々が大切に想える環境であってほしいという願いが込められています。

この原画を、縦 4.5 メートル、横 3.9 メートルのステンドグラスで表現しました。ステンドグラスには、ドイツの職人が手吹きでつくるアンティークグラスを使用し、その色彩は 81 種類、ピース数は 2,759 枚にものぼります。

制作では、原画の心象を再現するため、手吹きガラスならではの微妙な色合いも活かしながら、緻密な割り付けをしてガラスを切り分けています。さらに、削りの技術（サンドブラスト）による濃淡の表現や、ガラス用の色絵具（エナメル）による絵付けを施すことで、もとのガラスにはない色彩の重なりやにじみが生まれ、原画の持つ深い表情を引き出しています。また白の背景を構成するガラスには、4 つのテクスチャーを使い分け、自然のエネルギーが湧き上がり、広がっていく様子を立体的に演出しています。

その繊細な表現をかたちづくっているのは、原画に描かれた柔らかな点や、たゆたう曲線、群れをなすように連なる線のまとまりです。皆川氏が直接色ガラスに筆でマスキング材を施し、そのタッチを活かすように周囲の色を削り取ることで、同氏の息づかいがそのままガラスへと写し出されています。こうした技術と感性を積み重ねることで、豊かな奥行きが生まれました。富山を慈しみ、行き交う人々を温かく迎え入れる穏やかで明るい空間をつくり出しています。

本設置は、日本交通文化協会による 564 作品目の企画です。芸術作品が駅の利用者や富山を訪れる人々の目に留まることで、日々の活力や元気を見出せるような場になることを目指しています。

本作品が、富山駅を彩り、人々に親しまれる新たなシンボルになることを願っています。

大型ステンドグラス『生命の根』制作風景



原画をもとに、翻訳作業を行っています。

* クレアーレ熱海ゆがわら工房では、原画を解釈しステンドグラス作品に変換する作業を「翻訳」と呼んでいます。



翻訳して作成した型紙をもとに、ガラスを手作業でカットします。



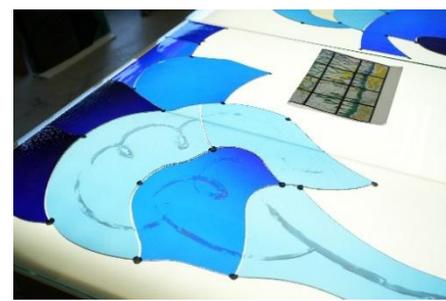
皆川氏によるガラス選び



皆川氏による監修



皆川氏によるサンドブラストのマスキング作業



皆川氏による色ガラスに施されたサンドブラストのマスキングの筆致



サンドブラスト（研磨剤を吹き付けてガラス表面を削る）等の技法を駆使して、豊かな表現にしています。



1000年以上の歴史がある伝統的なレッドケイム技法（ガラスピースを鉛棧（なまりさん）でつなぎ、はんだ付けで固定）で仕上げられています。



自然光で最終確認しながらクリーニングします。

<制作：クリアーレ熱海ゆがわら工房について>



1981年に静岡県熱海市泉に建設。建築家の隈研吾氏が設計を担当。釉薬研究施設や造形スタジオ、ステンドグラススタジオ、ショールームなどを備えている。主に、ステンドグラスや陶板レリーフ・陶板を用いたパブリックアート作品を制作。最初の所長はベルギー人の故ルイ・フランセン氏。同氏指導のもと、世界屈指の製作技術を確立した。陶板レリーフに使用する釉薬は6,500色を管理し、ヨーロッパ発祥のステンドグラスも繊細で細やかな日本的なデザインを生み出して、訪れる外国人を驚かせている。創造の拠点として、外国人を含む多くのアーティストとコラボレーションを行っている。

大型ステンドグラス『生命の根』作品概要

- 当事業の目的
 - ① ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明氏 の原画をもとにしたステンドグラス作品によるパブリックアートの普及を追求
 - ② パブリックアートを通じて気軽に芸術に慣れ親しむことで、人々の心を和ませ元気づける空間を創出
 - ③ 富山の自然や文化に理解があり縁をもつ原画作家の作品を設置することで、地域の活性化や観光資源の開発に貢献
- 設置場所

あいの風とやま鉄道 富山駅 中央改札口横
- 規模と仕様

縦 4.5m・横 3.9m、内照式ステンドグラス
- 原画・監修

ミナ ペルホネン デザイナー 皆川 明
- 作品タイトル

生命の根（いのちのね）
- 企画

公益財団法人日本交通文化協会 <https://jptca.org/>
- ステンドグラス制作

クリアーレ熱海ゆがわら工房（静岡県熱海市泉 230-1）

■ 原画作家プロフィール



皆川 明 (みながわ あきら)

ファッション・テキスタイルブランド「minä perhonen」創設者、デザイナー

1995年に「minä perhonen (ミナ ペルホネン)」の前身である「minä」を設立。ハンドドローイングを主とする手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、衣服をはじめ、家具や器、店舗や宿の空間ディレクションなど、日常に寄り添うデザイン活動を行っている。国内外のテキスタイルブランドへのデザイン提供、新聞・雑誌の挿画なども手掛ける。2006年毎日ファッション大賞、2015年毎日デザイン賞、第66回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2025年毎日ファッション大賞選考委員特別賞受賞、フィンランド獅子勲章騎士一級章受賞。

本パブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。



【公益財団法人日本交通文化協会 概要】

1948年設立。交通文化の振興を目的に、駅や空港、公共施設にパブリックアートを設置する活動を続ける。最初の作品は1972年、東京駅に設置された福沢一郎氏原画のステンドグラス「天地創造」。本作品を含め、全国に564点の作品を設置。「1%フォー・アート*」法制化の実現に向けて、長年にわたり取り組んでいる。

* 1%フォー・アート

公共建築（建物・橋梁・構造物、公園等）の費用、もしくは公共工事費の一部（国によって1%~0.5%などさまざま）を、その建築に関連・付随する芸術・アートのために支出しようという考え。当協会では、公共工事費の1%を主張しています。

【あいの風とやま鉄道株式会社 概要】

平成27年3月の北陸新幹線開業に伴いJRから経営分離された並行在来線（北陸本線富山県内区間）を運営するため、県、市町村、民間の出資により設立された第三セクターの鉄道会社。

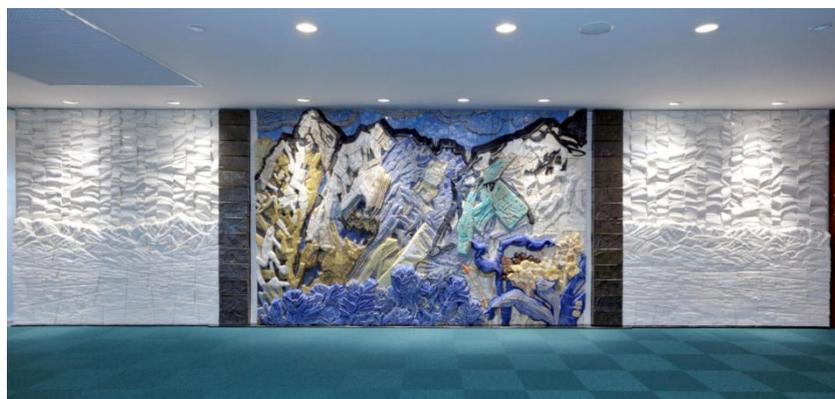
安全性の確保を最優先とし、利用実態に即した利便性を確保するとともに、県内公共交通機関のネットワークの結節拠点としての活用を図り、地域振興と住民福祉の向上を目指している。

開業以来、ICカードの導入や新駅・新改札口設置等の新たなハード整備に取り組んできたほか、沿線市町との連携による企画きっぷの発売やファンクラブの創設等のソフト事業にも注力してきた。今後のJR城端線・氷見線の経営移管に向け、準備を進めている。

<ご参考>

日本交通文化協会がこれまでに富山県内に企画・設置した作品は、以下のとおりです。

『生命の根』は、2 作品目となります。(2026 年 3 月時点)



「立山」

設置場所 : 富山空港 ターミナルビル 2 階中央ロビー
設置時期 : 2012 年 10 月
原画 : 片岡 球子
監修 : 片岡 佐和子
形式 : 陶板レリーフ
制作 : クレアーレ熱海ゆがわら工房

■ 日本交通文化協会がこれまで企画したステンドグラスによるパブリックアート（設置した一部）



「生命の旅」(2024)
大阪モノレール 大阪空港駅 (大阪府)
原画・監修/ヤノベ ケンジ



「青の森へ」(2021)
青森空港 (青森県)
原画・監修/森本 千絵



「ZOMEKI -悠久の二拍子-」(2022)
徳島阿波おどり空港 (徳島県)
原画・監修/竹宮 恵子



「蝶たちと戯れる大獅子」(2018)
小松空港 (石川県)
原画・監修/米林 宏昌



「妖怪たちの森」(2016)
米子空港 (鳥取県)
原画/水木 しげる
監修/水木プロダクション

※本ページ記載のパブリックアートは、一般財団法人日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されています。